



創立1880年  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館6階  
Tel 03-6302-1960  
URL http://tokyo.ymca.or.jp  
発行所 公益財団法人 東京YMCA  
発行人 菅谷 淳

# 東京YMCA 7/8

2021年

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

◇写真右IIののめYMCAこども園の「こどもフリーマーケット」。子どもたちが自分のオモチャなどをリサイクル販売。近隣の方も来店しました。

◇写真左IIグランチャ東雲「ポッチャ体験」。高齢者と乳幼児親子など、年齢も国籍もさまざまな人が共に楽しんでいます。



## 地域に根ざして 10周年

### 江東区児童・高齢者総合施設

### グランチャ東雲

### しののめYMCAこども園



2011年から東京YMCAが運営を始めた「江東区児童・高齢者総合施設(グランチャ東雲)」と「しののめYMCAこども園」が開設10周年を迎えました。この施設は地上7階建てで、1、2階が「こども園」、3階以上が「グランチャ」となっており、YMCAは高齢者や乳幼児親子向けに多彩な活動を提供。江東区湾岸エリアの新興住宅地である東雲で、コミュニティ作りにも力を入れています。

10年間の思いと展望を、園長・館長に聞きました。

### 家庭・地域と連携して

しののめYMCAこども園園長

堀江 和広

江東区の湾岸エリアにある東雲・豊洲・有明は、急速な開発によって作られた街で、50階を超える高層マンションが立ち並び、たくさんの若い家族が住んでいます。

「しののめYMCAこども園」は、この新しい街の教育機関として、2011年4月に開園。

「主体的に生きる」を教育理念として事業展開を始めてまいりました。また同時に、もうひとつの使命、役割を、開園以来のコンセプトに加えています。それは教育機関としての役割だけではなく、こども園が中心となり、

園児や家族、そして近隣住民の方々と巻き込みながら、新しいコミュニティの形成をしていくことでした。

この地域には、他県や海外から転入してきた家族が多く在住しています。高層マンションという佇まいもあり、お互いに知り合う機会や、交流を持つ機会が少ない環境でもあります。そのような背景から、「こども園」という教育機関を通じて、新しいコミュニティ

「三者で育てる」。つまり、家庭・地域・こども園が、互いに協力し将来を担うこともたちを育てていくのが当園の願いです。その願いのもと、保護者会「おひさま会」が組織され、こどもたちのために活発な活動展開がされるようになりました。さらに「コーラスグループすまいる」も発足。保護者の親睦交流はもとより、聖歌隊として

子どもたちに歌をプレゼントしてくれています。

2014年には、在園児のお父様方が中心となり、「東京ベイサイドワイズメンズクラブ」が設立されました。同ワイズが中心となって実施している「湾岸ゴミ拾い」や「マラリア撲滅運動」「こどもフリーマーケット」等の活動には、今では多くの保護者や園児たちが参加し、一緒に地域活動に関わっています。

将来を担うこともたちにとつて大切なこと。それはこうして「人と人のつながり」ではないでしょうか。この新しい街で、園児たちはこれから生活をしていきます。この街を愛し、ふるさととして大切にすることを、こどもたちからも育んでいきたいと思えます。

### 行政と協働し 地域を創る

グランチャ東雲館長

口原 恵美子

グランチャ東雲は、2011年の開設当初から江東区の指定管理者として東京YMCAが運営している「江東区児童・高齢者総合施設」です。高齢者対象の健康プログラムや趣味・教養講座のほか、乳幼児親子向けの活動など多数のプログラムを提供しており、10年間の利用者は累計176万人となりました。

特に介護予防プログラムでは、YMCAでの経験豊富な指導者たちが、高齢者が楽しく参加できるように工夫した運動を実施。区内でも評判が高く、他の施設の指導者研修も行なうなど、その普及にも寄与しています。

コロナ禍で休館が続いた際には再開を望む声が多く寄せられ、グランチャでの活動が区民の生活の

一部になっていくことを実感しました。

2016年からの5年間は「ふるさとづくり」をテーマに運営してきました。今では、お祭りなどイベントには地域の方がボランティアとして協力してくださるなど、グランチャと共に積極的に地域に携わろうとする参加者が増えていきます。

2021年度から5年間のテーマは「つなぐ架け橋グランチャ東雲」です。新興マンションと古くからの都営住宅が隣接し、多国籍化も進む街で、「江東区長期計画」(令和2、3年度)に示

された地域共生社会の構築は、YMCAが推進してきた「地域と共に生きる」の姿勢と重なります。東京YMCAは140年の歴史の中で培ったノウハウを活かして人々に寄り添い、ニーズを掘り起こし、江東区の協働パートナーとして、地域づくりに貢献していくことが期待されています。

コロナ禍では、YMCAが得意とする交流活動にも工夫が必要です。会えない人とSNSでつながれるようスマホ講座を増やしたり、ピンクの紙にコロナ後の夢を書いて館内に、桜並木を作ったり、プールで泳いだ距離をつないで東海道五拾三次を仮想旅行もしました。孤立を防ぎ、充実感や安心感、「つながる喜び」を提供できるよう日々工夫しています。

YMCAの看板を前面に出す施設ではありませんが、私たちスタッフから醸し出される息吹の中にYMCAのスピリットとマインドがしっかりと込められ、地域に心地よい広がりを生み出しながら、今後も行政の協働パートナーとしてさらなる歩みを進めてまいります。

ね！(会員部運営委員 詩田敏雄)

### 赤△三角

先日、人形劇団むすび座の『チト』を観ました。チトは、どんなところにも花を咲かせる不思議な(へみどりのゆび)の持ち主。そのチトが咲かせる花々は人々の心を豊かにし、兵器にも花を咲かせ、戦争を防ぎます。チトの力は、実は子どもたちみんなが持つ力です。子どもには、たくさんの笑顔の花を咲かせ、周りの大人も笑顔にする力がありますから。しかしコロナ禍の今、子どもたちの、心の底からの笑顔を見る機会が減っているような気がします。▼私が関わっている児童青少年演劇の多くの劇団員たちは、舞台を観た時の子どもたちの(弾けるような笑顔)に出会えることが本当にうれしく、よく語ります。行事の中止が続く中、学校公演で友だちと一緒に観る劇が、心の解放になるようです。▼心の解放の(場)といえばYMCAです。自然や仲間と出会い、活動し、感じ、楽しみ、笑い合える場。子どもたちの笑顔の花が育つ土壌であり、笑顔のタネを提供する大切な場であるYMCAの力が、今こそ求められているように思えてなりません。YMCAには子どもたちの笑顔の花を咲かせる(へみどりのゆび)の持ち主がたくさんいます。ね！(会員部運営委員 詩田敏雄)

# 感染対策し、東陽町で開催 会員芸術祭



「第29回会員芸術祭」が6月28日〜7月3日に開催され、会員や生徒、園児保護者や関係者など40人による51の作品が展示されました。昨年度はコロナ禍のためオンラインでの開催となりましたが、今年は感染対策を講じた上で東陽町センターに展示。3密回避のため、恒例のオープニングイベントや講評は行わず、静かな開催となりましたが、作品をとおして、楽しい交流のひとときをもつことができました。

「日本で初めて見た紅葉に感動した」というカノビア留学生のペーパークラフトや、「今年の

初回から実行委員長の務めを担いでいる浅見隆夫さん。『ボラ』を描いた日を描いた「絵」を。良い

春、平和を願って撮影したというLibby卒業生の桜の写真。まどみちおさんの詞に感銘を受けて書いたという江東YMCA幼稚園の卒園生親子による書写など、コロナ禍で製作された作品にはさまざまな思いや生き方がこめられたものも多く、小規模ながらも見ごたえのある芸術祭となりました。

今年もまた会員有志による芸術祭実行委員会が運営全般を担当くださいました。来年は、オープニングイベントや講評など、大勢の皆さんと集まることが待ち望まれます。



●浮き身の練習  
水に落ちた時は無理に岸をあがろうとせず、あおむけに浮いて呼吸を確保し助けを待ちます。服やくつは脱がなくてOK。小さなペットボトルでも喉元で持てば呼吸しやすくなります。



●障害物を体験  
からまる海藻や、滑る岩、荒い波など、プールと違って自然界は泳ぎにくいことを、家族で疑似体験しました。



↑水上安全に関する動画とハンドブックはこちら

山手コミュニケーションセンター「サーフティークャンペーン」では6月27日、幼少生を対象に、7月11日には東陽町センターでも開催を予定しています。YMCAは1981年から40年余にわたって水

## ウォーターセーフティ2021

「服やくつは無理に脱がない方がいいなど、大人も知らないことがあつた。勉強になりました」  
「実際に水に落ちたらパニックになると思います。だからこそ体験しておく必要があると思います。」などの感想をいただきました。

「大人が体験できる機会が少ないので、貴重な体験ができた」  
「服やくつは無理に脱がない方がいいなど、大人も知らないことがあつた。勉強になりました」

昨年度は新型コロナウイルスのため動画配信となりましたが、今年は感染対策をした上で体験会を開催することができました。

参加した保護者からは「大人が体験できる機会が少ないので、貴重な体験ができた」  
「服やくつは無理に脱がない方がいいなど、大人も知らないことがあつた。勉強になりました」

### 書籍紹介

## 日本とフィリピンの国交回復に尽くしたYMCA 小倉メモリアルクロスの記憶



安東邦昭著  
(北九州YMCA元総主事/YMCA史学会 正会員)  
木星舎/2020年12月発行  
四六判120頁1,300円+税

1953年、フィリピンのキリノ大統領は、第二次世界大戦の戦犯死刑囚として抑留されていた日本人110人を釈放した。キリノ大統領は戦時中、自身の妻を日本軍に殺害されたにもかかわらず、「憎しみや恨みを永遠に持ち続けるわけにはいかない」と和解の決断をしたのである。本書はその背景にあった日本とフィリピン両YMCAの交流活動、特に減刑運動を推進した小倉YMCAについて書かれたものである。

北九州の小倉は、1950年の朝鮮戦争で国連軍の基地とされた街である。多数の戦死者や負傷者が運ばれてきたことに心を痛めた小倉YMCAは、連合軍に「小倉メモリアルクロス」の建造を提案。1951年、小倉足立山麓に慰霊と国際平和のシンボルとして、高さ20メートルの十字架が建てられた。

そして2年後、この十字架の下にフィリピンと日本のYMCA会員らが集うこととなる。当初誰も想像しなかっただろう。しかもその記念写真はキリノ大統領に手渡され、日本とフィリピンの国交回復に貢献したのである。

献じたのである。さて、まだ国交も成立していなかった時代にフィリピンYMCAの会員137人が来日したことの発端は、1949年にさかのぼる。この年、日本とフィリピン両国のYMCAは、「日比親善委員会」を設置し、交流活動を開始した。日本側は、戦争で破壊されたフィリピンYMCAの建物復興のために募金を募り、また子どもたちに人形を贈るなど親善活動に取り組んだ。フィリピンYMCAではバスカラ総主事らが、日本人戦犯が収容されていたモンテンルパ刑務所を慰問し、食料や日用品を差し入れた。バスカラ総主事は1951年、直接キリノ大統領に減刑を訴えてくれた

が、反日感情は厳しく聞き入れられなかった。そこで両国YMCAは対日感情を好転させようと訪日を企画。1953年6月にマニラ中央YMCAの会員やワイズメンなど市民137人が来日するに至った。一行は横浜・鎌倉・名古屋など各地のYMCA会員はじめ多くの市民と交流し、その最終日に「小倉メモリアルクロス」を訪れたのだ。

キリノ大統領はその年7月と12月の2度にわたって恩赦令を出した。その3年後の1956年に日本とフィリピンはようやく国交正常化を迎える。風化させてはならないYMCAの国際交流の軌跡である。

(広報室)

## 総主事カフェ

東京YMCA総主事

菅谷淳

総主事カフェによる。行政の下請けとは情けない」と嘆く人もいます。しかし施設を利用してはいる人々は、YMCAを高く評価して下さっています。一生懸命に対応する、笑顔で声掛けする、寂しそうな人を励ます、YMCAの運営する公共施設はいつも明るく元氣な笑い声と笑顔で溢れています。

さて、「YMCAを名乗れないなんて、やる意味はない」という声を聞くと、「必ず思い出す、ある方から」の貴重なアドバースがあります。30年ほど前の会員協議会、私はまだ30歳そこそこの若造でした。基調講演

がありました。バンクラデシユはイスラムの国なので、キリスト教団体であるYMCAという看板は出せません。だからと言ってサイクロンシエーターを作らなくていい、ということにはなりません。目の前の人を何とか助けたいと願うなら、名乗る必要なんてないでしょう。

江東区児童・高齢者総合施設(グランチャ東雲II)の利用者の一人が館長に言われたそうです。「YMCAは何をお願いしても真剣に聞いてくれていつも何とかしてくれる。ちょっと親切過ぎるんじゃないですか？」私は最高の誉め言葉だと思って聞きまし



↑オンラインで参加した会員たち。中には香港など海からの参加もあった。

活動報告をする菅谷淳総主事→



# 会員大会 70人参加 2年ぶり オンラインで開催

「第18回東京YMCA会員大会」が5月22日、2年ぶりに開催された。昨年度は新型コロナウイルスのため中止を余儀なくされたが、今年は準備を重ね、オンラインで開催することができた。テーマは「コロナ禍でのYMCAを考える」。70人が参加し、画面越しではあるが、久方ぶりの交流を楽しんだ。

第一部の開会礼拝に始まり、第二部は、表彰・報告の時間として、まずは今年度の運営委員が推挙された。今年の名誉会員には田中壽夫氏、丹羽芳雄氏が推挙され、菅谷総主事より表彰状と盾が贈られ、それぞれ一言ずつお話をうかがった。

「ボランティア・オブ・ザ・イヤヤー」は、第30回を記念して昨年度受賞したチャリティゴルフ大会実行委員会が紹介され、「ユースボランティア」は今年度受賞した4名のリーダーが表彰された。その後、後援部運営委員で退任される方々への感謝が行われ、最後に菅谷淳総主事より昨年度の東京YMCAの事業活動報告がなされた。

第三部は、コロナ禍におけるYMCAのあり方を考える機会として、日本YMCA大会で配信された関田寛雄氏の基調講演を視聴した後、親睦も含めて分団に分かれて共有の時間を持った。

最後に会員の加藤祐一氏にご指導いただき、災害時にも役立つ折り紙「カトール」を皆で体験。新聞紙一枚で箱や帽子などを折ってみました。東日本大震災から10年、熊本地震から5年を迎えた年に災害・防災について考える良い機会となった。

(会員部統括 中里敦)

## 2021年度会員部運営委員

「会員部運営委員会」は、会員部が主催する各種イベントなど活動を企画し実施・運営する委員会です。委員は、毎年の会員大会で推挙されています。任期は1年。継続して3期を超えないこととされています。今年度は以下の方々が推挙されました。

|  |  |   |
|--|--|---|
| <b>【再任 16名】</b><br>麻生 由美子<br>今井 武彦<br>上田 晶平<br>大谷 博愛<br>大輪 匡史<br>唐島 悦子<br>小林 文彦<br>菺淵 光彦 | 近野 準一<br>榊原 正人<br>鈴木 雅博<br>中内 秀子<br>長谷 川あや子<br>保坂 天蒼<br>本川 悦子<br>蒔田 敏雄 | <b>【新任 5名】</b><br>佐久間 春枝<br>東矢 高明<br>林 正人<br>平山 恵子<br>綿引 康司 |
| <b>【退任 4名】 *任期満了</b><br>青木 方枝、 笈川 光郎、 木村 光晴、 藏知 浩  |  |   |

## 2021年度 名誉会員

「名誉会員」は、東京YMCAの発展に特に貢献のあった、満75才以上で会員歴20年以上の方に贈られるもので、毎年会員大会で推挙されています。

にわ よしお (88歳)  
**丹羽 芳雄さん**  
 1957年に東京YMCA入会。1970年から武蔵野ランチ・武蔵野センターの各種委員を務める。東京YMCA100周年記念事業委員、西東京センター運営委員長、社会体育専門学校運営委員、山中湖センター運営委員、国際福祉専門学校運営委員、及び非常勤講師等、数々の委員や常議員を歴任。学校法人東京YMCA学院では1999年度から2019年度まで理事・評議員を務めた。少年長期キャンプ「野尻学荘」では1958年から8年間プログラムディレクターを務め、「くまひこキャビン」と呼ばれるキャビン1棟を寄贈するなど、さまざまな事業の発展に貢献されました。

たなか ひさお (85歳)  
**田中 壽夫さん**  
 1959年に東京YMCAに入会。1994年以降、広報委員を6年、国際協力事業委員を6年、公益財団法人東京YMCAの評議員会副会長を8年間務められました。また中国を訪問し、東京YMCAが支援をしていた北京郊外の貧困地区にある「上鎮(じょうちん)小学校」の児童に文具を届けるなど、「東京-北京YMCAパートナーシップ」の活動に尽力された他、東京YMCAの専門学校をはじめとする学校教育の発展にも多大なる貢献をいただきました。なお学生時代から立教大学YMCAに参加。卒業後は同YMCAの理事長も務められました。

コロナ禍におけるYMCAの在り方を考えるため、日本YMCA大会(2月23日オンライン開催)で配信された関田寛雄さん(日本キリスト教団神奈川教区巡回教師)の基調講演を、東京の会員大会でも視聴しました。関田氏は「コロナ禍で露呈した貧富の格差や自国中心主義といった社会問題は、今後ワクチン接種が進んでも一過性のものとしてはならない」「YMCAはこうした社会の課題をみつめて、それに連帯して取り組み、新しい文明を創造していく役割がある」と力説されました。関田氏のメッセージは下記から視聴いただけます。 <https://youtu.be/7z7pTFG0jJg>



## ワークショップ 「カトール折り」体験



「カトール折り」は、東京YMCA会員の加藤祐一さんが考案した折り方で、一枚の紙から箱、袋、コップ、トイレ袋などを作り出せます。ハサミやノリを使わずに不要な紙でできるので、屋外でも手軽に作れる上、環境に優しく、避難生活などにも役立ちます。2018年に自費出版。今年9月には電子版が出版され、非常時にはスマホで閲覧できるようになる予定です。今回の大会では参加者全員で、加藤さんから画面越しにレクチャーを受けながら、基本の箱や帽子、スリッパなどを折ってみました。

「避難生活に役立つ『カトール折り』」文芸社 1,210円(1,100円+消費税)

## 【表彰】2020 Youth Volunteer of the Year

「ユース・ボランティア・オブ・ザ・イヤヤー」は、子どものキャンプや障がい児・者の活動などさまざまな領域で活躍する学生ボランティアリーダーに贈られる賞です。

**宮崎 澄佳**(みやざき すみか)さん/江東センター  
コロナ禍で例年通りに活動できない中、積極的に子どもたちのためにアイデアを出してくれました。2度にわたってYouTubeによるライブ配信にも参加。リーダーたちのまとめ役として活躍しました。

**若井 菜摘**(わかい なつみ)さん/山手センター  
コロナ禍にあっても、定例野外活動やシーズンプログラムなど、子どもたちの活動の場を支えてくれました。また山手センターの代表として全国リーダー研修会にも参加。そこで学んだことを仲間還元し、よりよい環境を作りました。

**松井 耀一郎**(まつい よういちろう)さん/西東京センター  
2017年度から小学生の野外活動やキャンプ、放課後等デイサービスなど様々なプログラムで活躍。人と関わる喜びも難しさも体験しながら、子どもたちのため、そして活動を共にするリーダーたちのためにも4年間、情熱を注ぎ続けました。

**中山 ゆり子**(なかやま ゆりこ)さん/南センター  
2020年度は大学卒業年度にもかかわらず、南センターの定例野外活動、夏季シーズンプログラムやいちよう学級、オール東京のプログラムと多岐にわたって参加、活躍してくれました。